同期会便り

18期生同期会の御報告

同期会幹事　山　内　桃　子（北部地区医師会病院　呼吸器内科）

暑い夏も台風シーズンも過ぎ、この原稿が同窓会誌に載る頃には忘年会シーズンとなっている今日この頃だと思いますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、さる（沖縄風に言うと“さった”）7月20日の日曜日に琉球大学同窓会と日程を合わせて18期生または同年度卒業生の同期会がラグナガーデンホテル、その後２次会が居酒屋里べ炉でありました。１次会 17名、２次会 16名、総勢19名もの同期が集まり、久々の再会の喜びを分かち合いました。同期生同士で学生時代に結婚し、ラブリーな結婚式を挙げた鈴木夫妻は二人の子供たちも連れて家族で参加してくれました。羽賀さん、安達君、高本君、池谷君（かわいい奥さん連れ）も県外から参加してくれました。沖縄で働いている面々も、普段はなかなか顔を合わす機会がないですが、この機会にゆっくり話ができました。みんなそれぞれ、学生時代と少しも変わらないようにも見えますが、少しずつ医師としての貫録（と贅肉？）も付いてきて、懐かしい話や近況など色々と話題も尽きませんでした。最後には翁長君が間違えて平山（良）君の靴を履いて帰ってしまうというおまけもありました。平山君はしきりに、「サイズがぴったりなのが余計にむかつくば～よ」とくだを巻いていました。（後日、無事にもとのさやにおさまったようです、良かったね。）

今回参加予定でありながら諸事情で参加できなかった同期、はがきで近況を知らせてくれた同期、便りがないのはよい便りの同期、色々でしたが、次の20年後の同期会にはもっともっと盛大になっていることを期待しています。このような機会を提供してくれた同窓会事務局の皆さん、日々の診療や生活で忙しい中を参加してくれた同期生、幹事を一緒に務めてくれた翁長君、仲村（貞）君、ベビーシッターまで買って出てくれた事務局の上原さんと姪御さんたち（託児サービスについては今後も課題になりそうですね）、どうもありがとうございました。今後も、皆様方のご健勝、ご活躍と琉球大学同窓会のますますの発展を願っています。